

整備されたまち

松本地区

■地域の声

震災直後は、区画整理事業には減歩が伴うことから、その対象となることは、家族を失い、家を焼かれた被災者にとって、唯一残された土地を減らされるということで、とうてい受入れることの出来ないものでありました。

しかし、区画整理に反対し争うだけでは、被災者は救われないうままであるということから、区画整理事業を受入れ、前に進むことを選択しました。

1 松本せせらぎ通り（松本線）

震災復興のシンボルとして、住民と市との「協働」のまちづくりにより、平成15年9月に完成しました。協議会の活動の中で、「火事の時に水があったら・・・」という住民のつぶやきから発想・発展したものです。

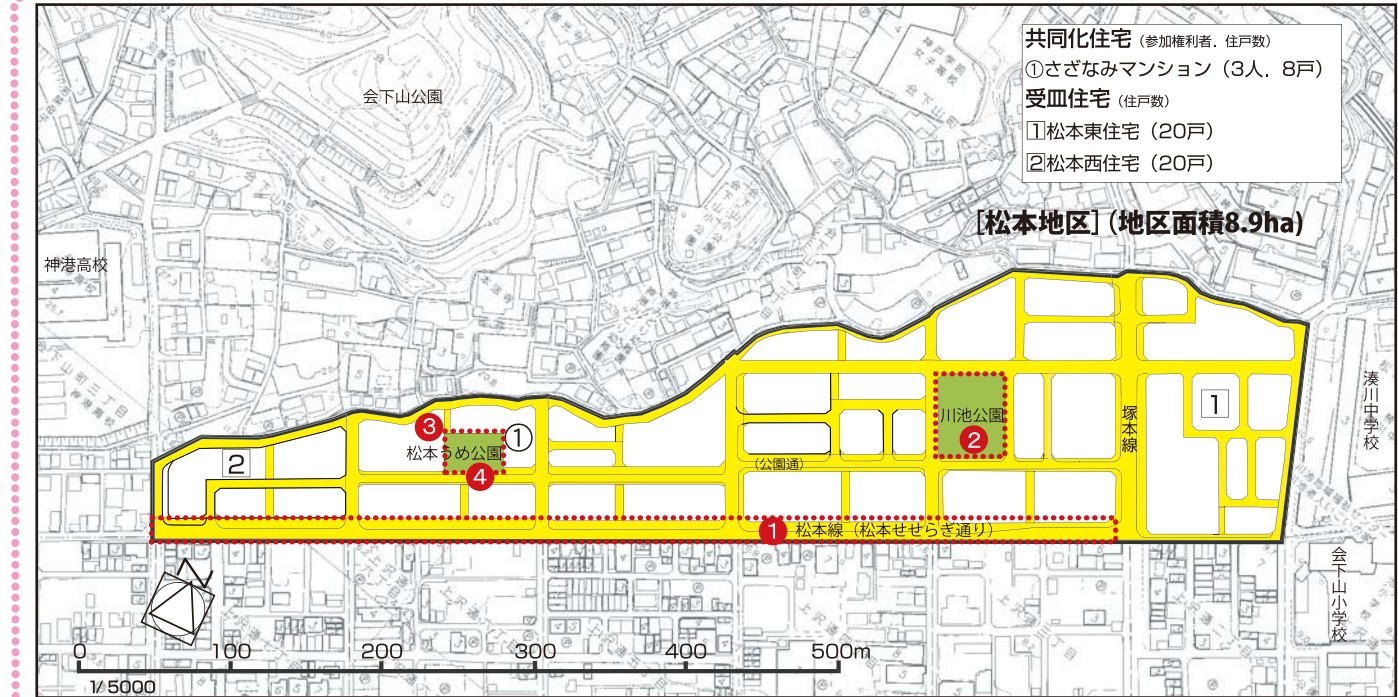
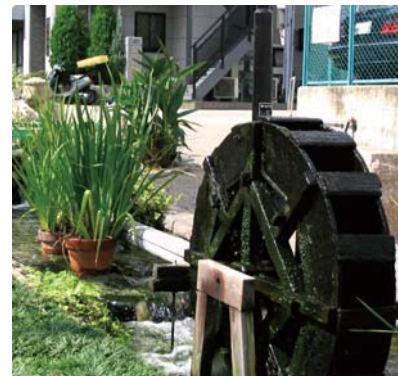
せせらぎは、各丁毎に異なった線形仕上げとし、まちに彩りと潤いを与えるとともに、非常時には初期消火用水として使えるように考えられました。せせらぎの水は、当地区北3kmに位置する鈴蘭台下水処理場の高度処理水を利用しています。

「松本せせらぎ通り」という名称は、住民から松本線の愛称を募集して決定したものです。

平成14年10月には国土交通省の都市景観大賞「美しい町並み大賞」を受賞しています。



みんなの幸せを願って、お守りの動物たちを置きました。いつも、みんなを見守っています。



3 松本地区まちづくり会館

まちづくり協議会の活動拠点となっています。



餅つき



4 松本うめ公園

和風のデザインを基調とした公園で、愛称は住民から募集して決定しました。

京都の北野天満宮からいただいた紅白の梅の木を植樹し、公園のシンボルとしています。

100トンの耐震性防火水槽かまどとなる丸椅子、防災器具庫、仮設トイレ用マンホールを備えています。



うめ公園野点



湊川町1・2丁目地区（組合施行）

住宅再建では、共同化住宅とするか戸建住宅とするかで大いに議論しながら進めていきました。みんなに減歩を受入れてもらうために苦労しました。でも、4m道路ができた地区はよくなりました。地区の人は、これまでの苦労を忘れないようになっています。



2 川池公園

慣れ親しんだ川池という地名を松本地区に残したいという思いから付けられました。100トンの耐震性防火水槽、かまどとなるベンチ、仮設トイレ用マンホールが整備されているほか、慰霊碑「いのちの碑」が建立されています。



松本しょうぶ祭り 出店



地藏盆



せせらぎ清掃



せせらぎパネル展



せせらぎ清掃道具



生き物観察会

